

主観的社会的地位と健康

——3つの媒介メカニズムの検討——

東北学院大学 神林博史

1 目的

社会疫学など健康の社会的決定要因を扱う研究領域では、ここ15年ほどの間に、主観的社会的地位 (Subjective Social Status: SSS) と健康の関係が注目を集めている。SSSは「自分が社会の序列構造のどこに位置するか」についての人びとの認知を測定したもので、社会階層研究で用いられる階層 (階級) 帰属意識に相当する。

SSSと健康の関連が注目を集めるようになったのは、客観的な社会経済的地位 (以下「SES」) の影響をコントロールしてもなお、SSSは健康に対して統計的に有意な関連を持ち、その効果はSESと同等かそれ以上であることが多くの研究で確認されてきたからである。このことは、社会経済的な不平等が健康に与える影響の中に、これまでに想定されてこなかった新たなメカニズムが存在する可能性を示唆する。

SSSと健康の関連については、もう1点興味深い点がある。それはSSSの効果の非対称性である。SSSを「上」「中」「下」のようなダミー変数として処理した場合、「上」よりも「下」の方が健康との関連が強いことが、多くの先行研究で確認されている。

ではなぜSSSはSESとは独立に、健康に対して非対称な効果を持つのだろうか。本報告は以上の問題意識に基づき、SSSが健康に影響するメカニズムを検討する。

2 方法

SSSと健康をつなぐメカニズムは、未だ完全には解明されていない。現時点では、(1) 相対的剥奪、(2) 心理的資源、(3) 損失回避性、がSSSと健康を媒介するメカニズムとして有力と考えられる。なお、これら3つの媒介関係は排他的ではなく、共存可能である。

低SSSであることは、相対的剥奪の増大・心理的資源の低下・損失回避性の上昇をもたらし、それが健康に影響すると予想できる。

分析に使用するのは「くらしと健康に関する意識調査」データである。この調査は、報告者が2015年12月に実施したインターネット調査である。調査対象は全国の20歳～59歳までの男女3000人、標本抽出法は年齢層・性別・地域 (都道府県) を基準とする割当法である。

3 結果

主観的健康および精神的健康を従属変数、SES・SSS・心理的資源・相対的剥奪・損失回避性・その他のコントロール変数を独立変数とするロジスティック回帰分析を男女別に行なった。暫定的な分析結果は以下の通りである。(1) SSSが健康に対しSESとは独立した効果を持ち、その効果は非対称であることは今回のデータでも確認された。(2) 心理的資源・相対的剥奪・損失回避性を同時にコントロールすると、健康に対するSSSの効果は基本的に消失する。(3) 3つの媒介要因の中では、相対的剥奪の効果が最も強い。

4 結論

以上から、SSSと健康の関連は、主に相対的剥奪によって媒介されることが示唆された。複数の相対的剥奪の指標のうち、効果が明確だったのは物質的剥奪で、このことはSSSが従来の標準的なSES指標とは異なる不平等の側面を反映している可能性を示唆している。ただし、SSSと相対的剥奪の関係は理論的にも実証的にも複雑であること、3つの媒介メカニズムは相互依存すると考えられることから、今後さらに詳細な検討が必要である。